

東京の教育

復刊第十五号

東京都教師会発行

(事務局) 横浜市都筑区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三〇

保守思想を鍛錬するといふこと

佐藤 健 二

いささか旧聞に属するが、本年三月十一日付の産経新聞「正論」欄に、文藝評論家の小川榮太郎氏が「保守思想を鍛錬して国柄をまもれ」と題する一文を載せてゐた。

その中で興味をもつたのは、最後の方で、もし安倍晋三首相から「一冊だけの本」を尋ねられたら、小林秀雄と岡潔の対談『人間の建設』を薦めたいと書いてゐたことである。

その理由として氏は「薄い平易な本だ。が、現代の病理への根底的な抵抗の言葉に満ちてゐる。日本人の常識的なやはらかなさが横溢してゐる。―そのやはらかな根源をやはらかなまま温存しなければ日本は足元から崩れる。

……リアリズムが勝ち続けるには思想的基盤が必要だ。この逆説を理解しないリアリストは寧ろ国を滅ぼす」と言ふ。言ひたいことは、政治家は徹底したリアリストでなければならぬが、そのためには形而上的な思想的基盤が必要だといふことであらう。

私は、現在ほとんど言及されることのないこの本を、首相から読むべき「一冊だけの本」を尋ねられたときの回答として用意されたこ

とに興味をもつた。といふのも、この記事の出る数日前に、臨床心理士であり、最近ある大学の教授になつた中高時代の教へ子と話しつゝ、どういふ話の流れからであつたか、私がこの本を読むべき本として紹介したばかりであつたからだ。呑みながらの話なので、よくは覚えてゐないが、小林秀雄を話題にしてゐたことだけは覚えてゐる。私は高校時代から小林秀雄の文章に親しみ、授業でも小林秀雄についてよく触れてゐたのであるが、その呑みながらの話で、教へ子からの、なぜ小林秀雄に惹かれるかといふ問ひに対し、それは小林が最後の棺を覆ふまで、良き青臭さ、青年の青臭さを持続し続けたからだといつた様な答をしたと思ふ。大批評家に、良き青臭さとは失礼な言を吐いたものだと思ふが、酔つた勢ひといふことでご勘弁願ひたい。言ひたかつたことは、思弁を好む青年が必ず直面する「我とはなんぞや」「いかに生きるべきか」といふ人生の根本命題を、批評精神の根本に据ゑ、ぶれることなく生き抜いたといふことである。思弁を好んでゐた多くの若者も、やがて現実の生活に呑み込まれ、その問ひを問ひ続けてゐる友人に会ふと、おまへまだそんなこと考へてゐるの、青臭さいな、早く大人になれよと一段上から物を言ふ。しか

し、言はれた方は、こいつも俗物になつたか、この問ひをなくしたら、生きる意味はないではないかと、心の中で思ふ。この隔たりは年と共に広がっていく。俗が悪いといふ訳ではない。俗にまみれながら、りつぱな仕事をしてゐる人は五万とゐる。しかし、しかしである。この問ひを胸中に抱いて生き続ける人は少ない。小林秀雄はこの問ひを終生、最晩年の〈本居宣長〉まで心底に潜ませ、そこから、いかに生きるべきか、その答へはない、いや眼前にあるといつた逆説を、常に突きつけてながら生き抜いた稀有な存在である。『本居宣長』を読むとそのことがよく分かる。

『本居宣長補遺』に曰く、
「宣長が、彼の「道の学問」の中心部に、「人の道はいかなるものぞ」といふ哲学的問ひを据ゑたのは、「道の学問」だからではない。この本質的に非合理的と言つてもいゝ問ひを、心の中心部に抱いてゐないやうな人間は、正常で健全な人間なら、あり得ないと信じたが為だ。」

この「我とはなんぞや」「いかに生きるべきか」といふ問ひは、他人に問ふことはできない。小林がよく口にする自問自答である。自らに問ひ、自らの内に答へを見出し、それを元に更に問ふ。この終はることのない問ひを問ひ続ける。小林はその問ひの質を高めるためにあらゆる努力を惜しまなかつた。文学は、その一つに過ぎない。絵画、音楽、骨董、宗教、歴史、それに自然科学。「我」といふ

宇宙は、森羅万象により形成されてゐる。ならば、その「我」を問ふには、森羅万象に自づと関心をもつことになるだらう。今の学校教育のやうに、文系理系などと大学受験科目に応じて学びの対象を選択するなどといふのは、愚の骨頂である。自らの精神を枯渇させる以外の何物でもない。

私は教へ子（B君）に、小林秀雄の対談集を読んで御覧よ、湯川秀樹との対談などは、湯川を通して、この世界を構成する物質の本質を究めてやらうとする気迫で問ひを發し続ける、その迫力は、すごいよ。それは、この自分といふ存在を解析して解析して、その解析の果てに何が見えてくるか、ひたすら自己存在の究明のために湯川秀樹を利用しつくしてやらうといふ気迫だよ。自己を通路として人間存在の深淵を見極めようとしてゐるのだよ。

『人間の建設』で、天才的数学者を相手にして、天才的批評家の小林秀雄が問うてゐるのもそこだよ。理系といふのは数字を言語として成立する世界の謂ひだと思ふが、生まれもつた言葉を素材に、人間心理に分け入り、世界を説明しようとする文学者にとつて、数字の描き出す法則性で世界を説明しようとする数学者の頭脳は、謎そのものである。その精神の二大領域にいかにか架橋するか。小林は、執拗にそれに迫る。天才岡潔は小林の問ひに、あつさりとその世界を超えてみせる。小林さん、それは情緒ですよと。情緒は、こ

の前頭葉に宿るのですよと。

この情緒を鍛へるために、岡潔が俳諧の世界に没頭したといふ話は有名だ。語と語とが論理的につながらない俳諧は、意味伝達の不能な言語芸術なのか。いや、意味が伝はり、深い共感をもたらすからこそ、桑原武夫の「第二芸術論」の批判を超えて、今日でも俳句愛好者は途切れることがない。その「意味」は、論理により形成される意味ではない。情緒の生み出す「意味」である。

私はB君に言った。国語の授業をしてゐて、ある時期から、生徒の反応が変はつたと感じた。それは詩の朗読をした時だが、おや、何の反応もない、以前だつたら、必ず何人かの生徒が、共感を示すやうな表情をした。り感想を述べたりしたものだが、何の反応もない、反発するわけでもない。関心がないと言つた表情だ。どうしてだらう。理解できないのではない。心に届いていないのだ。さう感じたところから、短歌や俳句といった韻文の指導が次第にしづらくなつてきた。反応が鈍い。面白くなささうなのである。このやうな韻文は、散文に比べて語と語との結びつきが弱い。論理ではなく「情緒」で繋がれてゐるからである。それだけにその世界を感受するには、幼いころからの感性のストックがなければならぬ。イメージを作るために精神の集中力を必要とする。そのエネルギーが情動といったもので、その座が前頭葉にあると岡潔は言ひ、現代の脳科学もさうだと言

ふ。それが今急速に劣へつつあるのだ。人と人との結びつきも論理ではない。情緒によるのだ。

臨床心理士のB君も、最近カウンセリングに来るほとんどの人の心の悩みは、人間関係がうまくできないことによると言ふ。我々の精神は、言語を通して親から子へと伝承される。私の精神の遺伝子は、DNAにあるのではない。親から伝へられた母国語、日本語といふ精神の器の中にある。母国語こそが、情緒を育む揺り籠である。幼少期における家族の語りひや読書体験や自然との触れ合ひが急速に失はれつつある現在、かつてのやうな言葉の隙間を埋める情緒力・想像力を取り戻すことは難しい。

保守思想を鍛錬するには、この日本語といふ精神の器によつて運ばれる、古代から続く日本の情緒といふ精神の力を鍛へるしかないのではないか。昭和四十一年十二月二十二日読了といふメモのある本を今書棚から探し出してきた。再読してみようと思つてゐる。

(会員)

「キラキラネーム」考

先 田 賢紀智

おうか ひな のあ まりあ りり まこ
ゆうと あおい あゆむ・・・

これは私の勤務校の生徒名である。漢字を

示せば、桜翔 陽菜 乃愛 麻莉亜 梨琳
茉莉 悠人 碧 歩夢・・・

新学期、初めての授業、出席を取る時、取る方も取られる方もある種の期待、不安を持つ。私も数十年前、新米教師として初めて受け持つ組の出席を取る時は前もって一人ひとりの名前を確認して臨んだ。その頃は読みに苦労はなかった。「秀樹、直樹、健・・・」。誰が読んでも「ひでき、なおき、けんいち・・・」。であった。其々の漢字に親御さんの愛情と期待が籠っている。女子も「恵子、和子、陽子、幸子・・・」「明るく、美しく、素直で」と分り易い。

さて次の名前、幾つ読めるであろうか。
苺愛 皇帝 黄熊 姫星 詠恋 華琉甘
七音 希星 美音 心姫
正解は
きらら しいざあ ふう きらり えれん
かるあ どれみ べが りずむ はあと

ところで六月二三日の沖縄は「慰霊の日」。その沖縄の知事は「玉城デニー」。本名は「玉城康裕(たまき やすひろ)」らしい。デニーは幼名。父親は沖縄駐留米兵。母親は沖縄県人。夫の母国である米国に渡ることを念頭に息子に「Dennis」と命名。が、夫は妻子を残し帰国。母は米国行きを諦めたのか、Dennisが小学四年の時「康裕」と改名したそう。

長じて知事となったデニーだが公文書には「玉城康裕」と署名している様だ。が、あの「慰霊の日」の式辞では「玉城デニー」であった。

余談だが、これがあのブッチーニのオペラ「蝶々夫人 Madam Butterfly」を思い出させる。原作は米国人ジョン・ルター・ロングの短編小説。一八九七年初版。これの戯曲を見たイタリア人のブッチーニがオペラ化したのが日本人が大好きなあの「Madam Butterfly」である。一度も来日したことのないブッチーニだが、「君が代」「さくらさくら」「越後獅子」「お江戸日本橋」等、日本のメロディが次から次へ流れるから日本人には堪らない。

主人公は米海軍少尉ピンカートン。この名が面白い。ピンが針でカートンは箱。蝶々をピンで刺し、箱に飾る昆虫採集か。フルネームはベンジャミン・フランクリン・ピンカートン少尉。艦の名はアブラハム・リンカーン。アメリカ人にはお馴染みの命名である。さてこの昆虫採集家のピンカートン、長崎寄港の折「蝶々」を採集。「蝶」と言えば清水次郎長の恋女房。身も心も捧げて尽くす姿はどちらも同じ。但し、花鳥風月に「お」を付けて「お蝶」「お雪」はあるが、「蝶々」と連続しては可笑しい。それはさておき、没落士族の娘である蝶々はピンカートン(針箱少尉)に嫁ぐ前に意を決してキリスト教に宗旨替え。お蔭で親族からは離縁。ところがこの蝶を十分愛でた少尉殿「駒鳥が巢を造る頃帰

る」と言い残しさつさと帰国。蝶々さんはその一言を信じ、只管待つ。その内、碧い眼の子が出来る。さて一人帰国したピンカートンはアメリカで正式に白人の妻(ケイト)を娶る。数年後、夫のピンカートンと共に長崎に寄ったケイトは、蝶々を見てどうしたか。嫉妬、怒り、殺意か。否、こう言うのである。「まあなんて可愛いもの。可愛い玩具(Pretty Plaything)ね。これじゃアメリカ人が夢中になるのも許しちゃう(I quite forgive our men for falling in love with you.)」と。そしてこの蝶々の子を引き取る。旦那が余所でこさえた子である。

所詮、日本人を蝶や花の様な愛玩物としてしか見ていない。

ネットによれば、昨年生まれた子供の名前の上位十位は、男子が①蓮、②大翔、③湊、④悠真、⑤陽翔、⑥樹、⑦大和、⑧陽太、⑨陸、⑩悠人。それぞれ①れん②ひろと、やまと③そう、みなど④ゆうま⑤はると、ひなと⑥いつき、たつき⑦やまと⑧ひなた、ようた⑨りく⑩はると、ゆうと。

女子は①葵、②凜、③結菜、④結衣、⑤陽菜、⑥陽葵、⑦芽依、⑧莉子、⑨結月、⑩楓。こちらはそれぞれ、①あおい②りん③ゆな、ゆいな④ゆい⑤はるな、ひな⑥ひな、ひなた⑦めい⑧りこ⑨ゆづき⑩かえで。

当然のことながら名前にはその名付け親の

期待がこもっている。ある新聞の投書欄。

「世界で唯一の名、我が子は喜ぶ」

私の二人の子の名前も「龍空(りくく)」「未光(みかる)」で、ほとんどの人は読めません。けれども、そのお蔭で先生方から「何て読むの?」と聞かれ、その度に自分の名前を張り切つて答えているそうです。「パパとママがつけてくれたの!」

世界でたった一つの宝物(子供)に世界でたった一つの名前を付けたくて、懸命に本を何冊も読んで考えました。「皆と同じ、皆がするのが正しい」ではなく、「自分の気持ちを大切にしていることが大事」、そんな気持ちが子供たちの名に託されているんだと思います。祈りの希望もたくさん込められています。人生の先輩方、先生方、子供たちに「何て、読むの?」と聞いてください。誇らしげな顔が返ってくると思います。

また、珍しい名前のお蔭で営業先で、名前の話で盛り上がったという話もある。

逆にあの「今でしょ!」の林修先生は、

「漢字本来の読み方を無視した読み方の想像が出来ない名前は固有名詞としての役割を果たしていない」とずばり。

最後に鎌倉時代文人、吉田兼好を紹介して駄文を閉じる。

徒然草 第一百六段

寺院の号、さらぬ万の物にも、名をつくる事、昔の人は少しも求めず、ただありのままにやすくつけけるなり。この頃は深く案じ才覚を顕はさんとしたるやうに聞ゆる、いとむつかし。人の名も目なれぬ文字を付かんとする、益なき事なり。

何事も珍しき事を求め異説を好むは浅才の人の必ずある事なりとぞ。

(お寺の名前始め万物に名前を付けるが昔の人は自然に分り易くつけたものだ。ところが最近では色々と考え自分の才覚の良さを披歴しようとしているが、誠に煩わしい。人名にも見慣れない字を使おうとしているが無益な事だ。

何事につけ、珍しい事を求め変わった説を好むのは頭の悪い人がやることであるぞよ。)
(会員 千葉県 県立高等学校教諭)

令和元年度の教育研究大会のお知らせ

日時 8月3日(土) 13:00~17:00

4日(日) 9:00~12:00

会場 「ハートフルスクエアG」

(JR岐阜駅構内)

研究主題

「新しい時代を切り拓く

国民教育のあり方を求めて」

記念講演 「教育の今日的課題

—あらたな道徳教育学を目指して—」

麗澤大学大学院特任教授 高橋史朗先生

特別講演 「教育現場で大切なこと

—踏み込む勇氣と場を察知する対応力—

阪南大学流通学部教授 平山弘先生

実践発表

①小学校 伊賀市立府中小学校 溝口哲志先生

②中学校 浪速中学校高等学校 松尾大輔先生

③高等学校 岐阜済美高等学校 渡邊威先生

講師 日本教師会副会長

皇學館大学准教授 渡邊毅先生

総括 日本教師会会長

京都産業大学名誉教授 若井勲夫先生

会費納入のお願い

次によりご協力をお願い致します。

年額 二千元

口座 みずほ銀行港北ニュータウン支店

店番号 743 普通預金 1330150

名義 佐藤健二

お願い

「東京の教育」への会員の皆様のご投稿を
お待ちしております。

字数は三千字程度以内でお願いします。

仮名遣いはいづれかに統一して下さい。

また、写真や図版の掲載はご相談ください。

送り先は題字下にあります。また、メー

ルの送り先は次の通りです。

事務局アドレス(佐藤)

komasato@juno.ocn.ne.jp